



報道関係者 各位

NPO法人 放送批評懇談会

発表！2026年2月度ギャラクシー賞月間賞

放送批評懇談会が日本の放送文化の質的な向上を願い、テレビ、ラジオの番組、関係者を顕彰する「ギャラクシー賞」。ことしで63年の歴史を誇ります。

ギャラクシー賞テレビ部門では、「ギャラクシー賞」活動の一環として、毎月、自主的に番組を推奨する「月間賞」を選定しております。今月の月間賞を別紙のとおり発表いたしますので、貴媒体でお取り扱いのほどお願い申し上げます。

ギャラクシー賞テレビ部門は、この日常視聴に基づく「月間賞」と、各社からの応募作品を併せて審査を重ね、毎年の受賞作を決定いたします。2026年6月上旬開催予定の贈賞式にて、大賞をはじめとする各賞が決定、表彰されます。

今後の選考にもご注目いただければ幸いです。

●放送批評懇談会について：1963年の発足以来、評論家、ジャーナリスト、マスコミ研究者などを会員に、各種の活動を展開しております。放送の専門誌・月刊「GALAC（ぎやらく）」の編集・発行、優れた番組・CMを顕彰する「ギャラクシー賞」の選考・運営、メディア界の動きを解説するセミナーやシンポジウムの開催などを行なっています。

●過去の受賞作をお探しの場合は「ギャラクシー賞データベース（<https://houkon.jp/galaxy-database/>）」をご活用ください（掲載内容：作品名、放送局・制作社名、制作者、出演者、受賞理由など）。

<お問い合わせ先> NPO法人 放送批評懇談会

MAIL : kondankai@houkon.jp HP : <https://www.houkon.jp/>





2026年2月度ギャラクシー賞月間賞

BSスペシャル「真実をめぐる攻防～アメリカ ファクトチェックの最前線～」

1月30日放送 日本放送協会 ドキュメンタリージャパン

フェイク情報が急増する米国において、中立的なファクトチェック団体が果たす役割と意義の重要性が伝わる。真実の意味自体が分断されつつあるなか、どのように情報を伝えていくかの難しさも映し出された。日本においても「ファクトチェック」をどう捉え、どのように実践していくべきかを改めて考える契機にもなる内容だった。

クレイジージャーニー

「愕然…ゴンザレスが楽園ハワイの裏取材★Awichがポル・ポト大虐殺の真相に迫る」

2月9日放送 TBSテレビ

丸山ゴンザレスは「楽園ハワイ」の裏側を、ラッパーのAwichはポル・ポト政権下のカンボジアの凄惨な歴史を紐解いた。政権下、音楽が流れたのは「虐殺時の悲鳴を消すとき」だけだったという。そして今、処刑場として使われた会場で、カンボジアのラッパー・VannDaとAwichたちが「自由」の音楽を鳴り響かせ大歓声を浴びる光景は感動的。どちらも無関心層に届く強度を備えていた。

ETV特集「僕が戦争に行く理由」

2月21日放送 日本放送協会

戦争が長期化するなかで、ロシアとの戦いが次第に「自分との闘い」にもなっていくという、ウクライナ軍兵士ブラッドの言葉が非常に重く響く。仲間たちの死を見つめながら、彼が記録する戦争の最前線の映像を、日本の放送局が番組として編集・放送し、その過酷な現実を伝えること自体に意義があると思う。

金曜ナイトドラマ「探偵さん、リュック開いてますよ」

1月9日～2月27日放送 テレビ朝日 MMJ

力の抜けたのほほんとした荒唐無稽が実に心地よく、松田龍平はじめ役者陣も気持ち良さげに楽しんでいる空気感に癒やされる。珍発明も宇宙人も幽霊も待タイムスリッパーも超常現象も、皆ちっとも前面にしゃしゃり出ず、ふわふわと通り過ぎていく。シュール・ナンセンスなどという訳知り顔の評価さえ蹴とばしてしまう、潔い「いい加減さ」に痺れた。

★詳細は月刊誌「GALAC」2026年5月号に掲載します